

2023年4月

各小・中・特別支援学校長
難聴・言語障害教育担当教諭
特別支援教育担当教諭
関 係 機 関

各位

日本言語障害児教育研究会
会 長 石 川 清 明

第56回日本言語障害児教育研究大会の案内

陽春の候、皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

現在、新型コロナウイルスの感染やその影響が依然続いており、東京代々木の会場に参加できにくい方もおります。第56回日本言語障害児教育研究大会は、昨年に引き続き、

【1】東京代々木会場での開催

【2】YouTubeによる講義動画視聴

の両方を企画いたします。

東京代々木会場での開催は、下記の日程で二日間開催し、同一時間帯に『A』『B』『C』の講座を設け、その中から選択できるようにします。講義室の関係により定員制となります。

講義動画は、日言研HPからID・パスワードを入力しYouTubeで視聴します。

要 項

【1】東京代々木会場での開催

★昨年、対面の講義に参加された方から講義動画視聴の要望があり、YouTubeによる講義動画視聴とセットとします。

1. 日 時 2023年8月7日（月曜日 12:20～17:30）
8月8日（火曜日 9:20～12:40）

2. 会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター(<http://nyc.niye.go.jp/>)
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

3. 主 催 日本言語障害児教育研究会 (<http://nichigenken.com/>)

4. 後 援 文部科学省

5. 参加方法および研修費

○参加資格 難聴・言語障害教育関係者及び関心のある方

○研修費 9,000円

8月7日及び8月8日の一日参加の方も、講義動画視聴とセットとなりますので、どちらも研修費は、9,000円となります。

○参加定員 講義室の定員は、感染対策上、①180人、②100人、③50人です。

○申し込み期限 7月7日(金)

【2】YouTubeによる講義動画視聴

【1】で開催した講義の動画をYouTubeから配信します。期日は8月11日(金)～9月11日(月)を予定しています。研修費は、全講座で9,000円です。視聴のためのID・パスワードは受講証等にて連絡します。締め切りは7月7日(金)です。

※大会は、会場施設の感染防止対策を基にして開催します。会場のホームページより《施設利用時の感染症対策について》を参考にしてください。

※会場へのアクセスや会場案内図の詳細は、会場のホームページを参照してください。渋谷駅からのバスは、周辺の工事のため、乗り場に注意してください。

※駐車場は、会場の他に、近くの公園管理事務所よりも駐車場があります。

※大会の運営、講師、テーマ等は、大会開催の都合上、予告なく変更される場合があります。変更等はホームページに掲載しますので、ホームページの最新情報を確認してください。

※申し込みで頂いた個人情報は、大会の運営以外には使用しません。

【3】研修日程 〈講義室は当日お知らせしますが、6月末頃、HPに掲載します〉

8月7日(月曜日) 受付 11:30から

○ 開会式 (12時10分～12時20分) 会場;当日受付にてお知らせします。
研究会会長挨拶、大会オリエンテーション(各会場にて)

【12:20～13:50】

- 1 A 「構音評価の基本一音の聴き取りから指導案作成まで」 昭和大学歯科病院 武井 良子
構音評価では、音の聴き取りが苦手、音の誤りの記述法がわからないという方も多いのではないのでしょうか。また、構音検査の実施後にどの音から指導するか悩むこともあると思います。本講座では、構音評価の基本である音の聴き取りと書き取り、構音検査の結果を指導プログラム立案にどう活かすかについて解説します。「新版 構音検査 手引書」をお持ちの方はご持参ください。
- 1 B 「言語発達遅滞の評価と支援」 東京学芸大学 藤野 博
言語発達遅滞は様々な原因で起こります。本講義では、ことばの遅れのみにも問題を生じ、読み書き障害の原因になることもある「特異的言語発達障害」と自閉スペクトラム症の子どもによく起こる会話や語用の問題などに焦点をあてます。そして、それらの障害のことばの発達の特徴、アセスメントと指導・支援の方法について概説します。また、子どもの興味関心を活かしたコミュニケーション支援法も紹介します。
- 1 C 「幼児期の発達とことばの獲得」 元國學院大學 石川 清明
幼児期の言語発達は、成長や発育に関わるほぼ全ての側面と相互に関連しながら急速に変化する特徴があります。同時に様々な問題が見られ始め、その性質や影響が次第にはっきりしてくる時期でもあります。本講座では、発達の視点を軸としてことばの獲得の条件やその過程について理解を深め、幼児ならびに保護者を対象にした相談指導のポイントを考えてみます。

【14:10～15:40】

- 2 A 「構音指導とは?—基本知識と指導の進め方—」 昭和大学歯科病院 山下 夕香里
構音指導では、構音操作から日常会話へ階段を一步步つ上るように指導します。しかし、階段は同じ高さではなく、日常会話になかなか到達させることができません。漫然と指導していませんか。ポイントを絞って指導することで、子どもが持つ力を引き出し、確実に階段をクリアさせる知識が必要です。舌運動訓練にこだわらず構音指導を基本から見直しませんか。全ての先生対象です。
- 2 B 「言語発達遅滞の支援の実際」 東京学芸大学 大伴 潔
本講座では、「語彙を育てる」「文を構成する」「文章で表現する」「効果的に伝える」といった言語領域の発達過程を概観しながら、適切な支援目標の立案と、興味を持たせる課題を通じた支援について考えていきます。言語評価法の例として学齢児版のアセスメント「LCSA」を取り上げ目標設定のあり方を考えるとともに、言語発達支援の効果的なアプローチについて検討します。
- 2 C 「子どものことばの育ちを支援する教育・保育臨床」 元國學院大學 野本 茂夫
この講座では、教育・保育現場でことばに問題や悩みのある子どもの相談支援を考えます。ことばの臨床相談では、子どもや保護者、関わる教師と信頼関係を築き協働して子どものことばの育ちを障害する要因を探り、その要因の背景を理解しながら、効果的に問題を解きほぐし改善することで子どものことばを育みます。このことばの獲得期にある子どもの相談支援のあり方を考えます。

【16:00～17:30】

- 3 A 「基本となる指導—カ行音・サ行音(置換)の指導—」 昭和大学歯科病院 山下 夕香里
構音指導は舌運動訓練ではありません。目標音の基本操作を確実に習得させて、音を作り、ことばに移行させ、日常会話に定着させます。代表的な置換の誤りの指導法を見直しませんか。指導の基本を整理することで、ご自身の指導内容を見直し、明日からの指導に役立ててみませんか。手鏡、ペンライトをご用意いただき、一緒に指導体験をしたいと思います。全ての先生対象です。

3 B 「気になる子どもの視点から保育を考えるー共生社会の担い手を育むためにー」

国立特別支援教育総合研究所 久保山 茂樹

この講座は、乳幼児期の子どもにかかわる先生方を対象にしています。「気になる子ども」の存在は先生方の苦勞につながるかもしれません。「あの子が変わってくれたら」という気持ちになるのも無理もないことです。でも、子どもの特性を変えることは簡単ではありません。子どもへのまなざしや保育を変えることを考えてみませんか。それが子どもや先生の笑顔につながります。

3 C 「難言教育における子どもとの関わり及び教室経営の基礎・基本」

国立特別支援教育総合研究所 牧野 泰美

きこえとことばの教室は、様々な実践・取組を通して、難聴や言語障害のある子どもの暮らしの充実さらには生き方を支える場としての役割を担っています。きこえとことばの教室の担当者に求められること、担当者が大切にすべきことは何でしょうか。難聴・言語障害教育における子どもの理解や関わりの視点、子どもを支える上で重要な教室経営の基礎・基本についてお話しします。

8月8日（火曜日） 8/8から参加の方の受付 9：00から

【9：20～10：50】

4 A 「聴覚障害児の評価と支援」

大東文化大学 齋藤 友介

難聴児をとりまく社会的状況は1990年代から世界的にも激変し、私たちは激動の時代に身を置いています。この講座では「新生児聴覚スクリーニングの普及」「人工内耳装用児の増加」「手話の（再）活用」・・・といった、難聴児に携わる者が避けて通れないそれぞれのキーワードを踏まえつつ、これからの難聴児教育について、皆さんと考えていきたいと思えます。

4 B 「吃音の基礎知識と新たな視点」

東京学芸大学 伊藤 友彦

吃音の原因はまだ明確にはなっていませんが、長年にわたり欧米を中心に多くの研究が行われ、いろいろなことがわかってきました。吃音のある子どもたちの理解と支援のためには日々の指導の基礎となる吃音の基礎知識と最近の知見の理解が不可欠です。今回は最近出版された吃音についての代表的な米国の教科書に基づき、原因論や指導法についての新しい視点を紹介します。

4 C 「発達障害児の理解と支援」

船橋市立船橋小学校 大山 恭子

発達障害のある子どもは、同じ障害であっても困り感は人それぞれです。そのため、効果的な支援を行うためには、子どもの特性を把握し、その子どもにあった手だてを考えていく必要があります。この講座では、障害の特性とつまずきに応じた様々な支援方法や、学級担任や保護者、医療との連携のポイント等についてご紹介します。

【11：10～12：40】

5 A 「聴覚障害児の支援の実際」

筑波技術大学 長南 浩人

発達早期に聴覚障害を有した子どもの多くは、言語や認知、学力、社会性、感性など多様な発達面で健聴児とは異なる育ちを見せます。本講座では、学校や家庭で見られた具体例を挙げ、またそれに対して心理学的な考察を加えることで聴覚障害児が見せる育ちの「なぜ？」を考えます。さらに、これを踏まえた授業と日々のコミュニケーションの留意点、指導の在り方を検討します。

5 B 「吃音児の理解と支援」

金沢大学 小林 宏明

吃音のある児童生徒の指導・支援では、児童生徒を包括的に理解した上で、（1）学級担任と連携して行う在籍学級の環境調整、（2）吃音の知識や自身の吃音の特徴の理解・把握、（3）吃音の言語症状・心理症状を軽減・緩和する方法の習得などを通して、吃音の困難の軽減や吃音と折り合いをつける方法の探究をします。本講座では、事例に基づき、これらについて考えます。

5 C 「読み・書きに困難がある子どもの理解と支援」

上智大学 原 恵子

「読み・書き」は様々な能力が関わる複雑な精神活動で、困難の要因は一様ではありません。困難を理解し支援を考えるには、書きことば・文字の特質、読み書きの基盤の能力、困難さの多様な要因、読み書き困難が言語発達に及ぼす影響など考えるべきことがたくさんあります。限られた時間ですが、基本的事項を事例に基づいてお話しします。理解の一助となりましたら幸いです。

○ 閉会式 **【12：40～12：45】** 次回大会のお知らせ

【4】申し込み方法

1. 【1】東京代々木会場での開催に参加される方

往復はがきでの申し込み（返信裏面には何も書かないでください）往信宛名欄に下記の送付先を、返信宛名欄に返信先の〒・住所・氏名を、往信文面欄に下記の項目をご記入の上郵送してください。

- ①参加と記入してください。 ②氏名(ふりがな) ③連絡先の〒・住所・TEL・FAX ④所属名・TEL・FAX ⑤難言経験年数 ⑥希望する講座【1～5-A、B、C】を、右記の記入例のように記入してください。
- ⑦8/7(月)に会場の宿泊施設を利用される方は、「宿泊希望、男or女」と記入してください。個室D棟(バス・トイレ付き)にて、男性5人、女性20人を先着順に受け付けます。宿泊代は、3,700円(食事別)です。宿泊定員になり次第締め切ります。
- ⑧公費で研修費を支払われる方は事務手続きの都合上、公費参加と記入してください。請求書等の書類が必要な方は、早めにお願います。

講座 記入例
1 A
2 B
3 C
4 A
5 B

2. 【2】YouTubeによる講義動画視聴を希望される方

往復はがきでの申し込み(返信裏面には何も書かないでください)往信宛名、返信宛名を記入し、①視聴と記入してください。 ②氏名(ふりがな) ③連絡先の〒・住所・TEL・FAX ④所属名・TEL・FAX ⑤難言経験年数 ⑥公費で研修費を支払われる方は公費参加と記入してください。

3. 1、2と同様に日言研のホームページ(<http://nichigenken.com/>)からも申し込みます。申し込み画面から、あるいは申し込みFAX用紙をプリントアウトしてFAX(下記の番号に)で申し込んでください。また、複数での参加の場合、まとめてメールやFAX、ハガキで申し込んでも受付します。

4. 申し込み受付確認後、返信(メール、FAX、はがきの返信等)にて研修費等の振込先を連絡します。講義室が定員に達した場合は参加できない旨の連絡をします。

5. 研修費等の振込みが確認されましたら、順次「受講証」を送付します。参加される方には、施設全体や、センター棟(講義室)の案内図を併せて送ります。

6. 難言経験年数につきましては、皆様の要望に合わせた講座を企画しますので記入してください。

7. 日言研のホームページからの申し込みは、大会申し込み画面の「参加」あるいは「視聴」をクリックすると、それぞれの申し込みフォームに移行し、記入後送信しますとメールによる申し込みになります。申し込み後、すぐに確認の返信メールが届きますが、届かない場合は、

- ・セキュリティソフトの関係でメール自体が送信できない、あるいは事務局からの返信が届かない。
- ・メールアドレスの記入間違いのため事務局からの返信が届かない。
- ・返信メールが迷惑フォルダに自動分類されている。(迷惑フォルダから移動すれば大丈夫です。)

等考えられますので、FAX等で再度お申し込みください。

8. 申し込み後、研修費を振り込みされた方のキャンセルによる返金はできません。都合により参加できなかった方は、YouTubeからの研修動画視聴に振り替わります。あらかじめご了承ください。

9. 東京代々木会場に参加された方には大会講義資料集を配付しますが、視聴の方は、ホームページからPDFファイルをダウンロードし講義資料集としてご活用ください。

10. キャンセルや問い合わせはメール(nichigenken@gmail.com)やFAXにて連絡してください。なお、大会の運営等についての問い合わせは、会場のセンターではなく日言研事務局をお願いします。

○ハガキの送付先 〒276-0041 千葉県八千代市麦丸1136-2 櫻井 正二郎
(問い合わせ先) 送信先FAX番号(FAX専用です) 047-400-6337